

平成29年7月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成29年7月25日(火)		
2 開会及び閉会	開会	14時00分	
	閉会	15時35分	
3 出席委員	教育長	菅野和良	
	委員	奥津晋	
	委員	塩田澄子	
	委員	藤原佳代子	
	委員	石井希典	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	安田充年	教育次長	天野和弘
統括審議監(企画調整担当)	小西洋史	審議監(学校教育担当)	三宅泰司
審議監(社会教育担当)	澤岡哲雄	審議監(企画総務担当) (教育企画総務課長事務取扱)	村田守
審議監(生涯学習担当) (生涯学習課長事務取扱)	近藤康彦	学校施設課長	齋藤和美
指導課長	岡林敏隆	生涯学習課課長代理	安東信哉
指導課課長補佐	怒田真由美	地域子育て支援課副主査	岡崎主馬
事務局(教育企画総務課課長補佐)	生田裕宣	事務局(教育企画総務課副主査)	島田雅紀
5 議題及び結果			
報告第17号	専決処理の報告(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認	
第14号議案	平成30年度使用教科用図書の採択について	原案可決	

6 教育長等の報告 [平成29年5月27日(土)～平成29年7月14日(金)]		
5/28	めだかの学校環境まつり	生涯学習課
5/29	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
5/30	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、保育・幼児教育課
5/31	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
	教育長学校訪問	教育企画総務課
6/1	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
	教育長学校訪問	教育企画総務課
6/2	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
	教育長学校訪問	教育企画総務課
6/9	新成人の集い第1回実行員会	地域子育て支援課
	教科別研究委員会	指導課
6/23	教育長学校訪問	教育企画総務課
6/26	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、保育・幼児教育課
	教科用図書選定委員会	指導課
6/27	岡山市立石井小学校英語教育授業研究会	指導課
6/28	教育長学校訪問	教育企画総務課
6/29	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
7/3	P T A 指導者研修会	生涯学習課
7/4～6	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、保育・幼児教育課
7/7	教育長学校訪問	教育企画総務課
7/10	教育長学校訪問	教育企画総務課
7/12	平成28年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価に係る外部評価委員会議	教育企画総務課
教育長 石井委員 指導課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日程第3、事業報告について何か質問はないか。 ○ 2番以降の今回実施いただいている、子どもが輝く学びづくりプロジェクト、公開授業の実施状況について聞きたい。 ○ これは昨年度までの「いきいき学校園づくり」をリニューアルして実施しているものである。学校数から申し上げると、市内の幼稚園、小学校、中学校の4分の1の学校に公開授業と、その後の研究協議をお願いしている。これまでと違う点としては、代表者の方の授業をみんなで見て、1つのテーマで協議を深めていくという授業研究に特化したものである。学力向上等に有効に活用できるものと期待している。学校からの声として、先生方が授業研究を熱心にする姿がすごくいい雰囲気になったという声や代表授業は結構プレッシャーになるので、少しトーンを弱めてほしいという意見もあった。 	
石井委員 指導課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期は、主に小学校、幼稚園で実施していただいているが、2学期以降は中学校も公開があるので、もし日程等の都合がつけば参加していただきたい。 ○ 公開授業に平均値としてどのくらいの方が来られているのか。 ○ 平均値は出していないが、中学校区内の学校園については必ず案内をしている。それから、広く岡山市の小中学校、幼稚園にも案内を出す。中学校区内からの参加者は、各学校それぞれ時間をやりくりしていただいて、交流を兼ねて来ていただいているという実態はあるが、より多くの先生方に授業を見ていただく機会としてお知らせしたい。 	
藤原委員 指導課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ事業だが、このいきいきがリニューアルした関係で、学校はこのプロジェクトの前と後で変わった様子はあるか。 ○ 前と後は、大きく変えている。代表の方の授業だから、全員の方が指導案を書くというスタイルが消える懸念もあったので、学校側と協議をし、3年目に代表の方が授業をしていただき、それを受けて、4年目には全員の方の授業をしていただき指導案も提供していただくことでお願いしている。 	

	<p>日程については学校の自由裁量としていて、都合のつくところで指導課等の指導主事が行って、一緒に授業を見て、協議の場があれば参加もさせていただくことで進めている。</p> <p>これは中学校も含めて、1学期にかなり実績があった。それから、1年次、2年次については、残りの半分の学校については、代表の授業をし、全員の方の授業をするということで、授業研究が毎年の学校行事というか、学校の取組の1つとして定着するところへ持っていきたいと考えている。</p>
藤原委員	○ それについて、指導者というか指導課の指導主事が行かれていると思うが、例えば、大学の先生等も行かれているのか。
指導課長	○ ここで上げている学校については、岡山大学の先生を中心にスーパーバイザーという形でご意見をいただくスタイルをとっているが、この後については、それを具体的にはお願いしていない。こちらでしっかりとカバーしていきたいと思っている。
藤原委員	○ 今回、代表が授業をするということで、教科になる。前だったらいろんな教科があって、大きなテーマがあって、それに迫っていくのがどうかというアドバイスを受けていたと思うが、今回から、例えば国語なら国語、数学なら数学といったときの教科の指導、スキルアップという面も入っているのか。それともやっぱり大きく言う授業研究、スキルアップという意味なのか。
指導課長	○ 学校では、子どもたちの動きであるとか、先生と子どもの関わりであるとか、これは教科を超えた共通の協議題になるので、そちらを重点的にお願いしている。ただ、教科のことをおろそかにするのは間違っていると思うので、小教研、中教研の教科部会との連携を今まで以上に深めるとか、それから、先日、結果も発表した学力アセスの問題づくりや分析等、そういったことを利用して教科の指導力の向上には努めていきたい。
藤原委員	○ それが大事かと思う。両面要ると思うが、生徒の関わりとか授業規律であるとか、時間を求めることとか、考える力とかは割とできてきたと思うが、個々の教科をどのくらい高めるかは、やっぱり現場が、さっき言われた小教研や中教研の力も要ると思うので、ぜひ教科の力をつけることも入れてほしいと思う。
指導課長	○ 学習指導案を作成するに当たっては、教科の担当指導主事に、しっかり関わるようにということで学校にはお伝えしているので、こちらの研究にも役立っていききたい。
塩田委員	○ 1学期は幼稚園、小学校を中心にとということだったが、お互いが見合うとか、そういう交流はいかがか。
指導課長	○ 中学校も含めて、特に中学校区内の学校園の先生方はかなり足を運んでいただいたということである。これはいきいき学校園づくりの時代から定着してきた岡山市の取組だと思う。
奥津委員	○ 今回から教育長の学校訪問がずらりと出ているが、行ってどんなことをされているのか。こういう形で載ってきた理由を説明いただきたい。
教育長	<p>○ メインは校長先生と話をするというのが大きいですが、学校に行かせていただいて、大体1時間半から2時間いるが、ほぼ1時間は校長先生と話をしている。要は、学力向上と生徒指導の課題解決に向かって、どういう取組をされているかを中心に聞くのと同時に、学校や地域特有の課題があるので、それをしっかりお聞きするようにしている。</p> <p>授業は1つずつの教室を駆け足で回っていくという感じである。小さい学校はじっくり見られるが、大きな学校は廊下からさっと中を見て終わりというところもある。私が前いた学校の子どもが行った中学校もあったので、校長先生だという話で楽しく見て回った。例えばもう、そんなことは取り組んでいると言われるかもしれないが、私が前によく中学校に行ったときに思ったのが、基本的に先生が前に立って、子どもたちは全部先生のほうを向いてという授業形態が多かったのが、小学校でよくやっている対面式で、コの字になってやっているクラスがたくさんあった。かなり変わっているなど。中学校の授業の形態等もしっかり研究して変えているなど。子ども同士で学び合うという風土が根づきつつあるなど感じた。</p> <p>それから、印象的だったのは、例えば、小学校2年生で九九を習うが、九九を勉強して、2年生のときは本当にみんなで、担任だけではなくて校長もと言われてい</p>

<p>藤原委員</p>	<p>たが、先頭に立って定着させるように頑張ったけれども、なかなか定着していないと。その2年生の子が3年生になったときにテストしたら、ちょっと悪かったみたいで、そういうのを見て、もちろん継続的に学校でも定着させないといけないが、家庭の力も大きいのかと。そういったところにも今度は目を配っていかないといけないという話を1校だけではなくてされていたので、なるほど。要は、そういったことでどんどん巻き込んでいきたいなと感じることはできた。</p> <p>手前みそであるが、おおむね、教育長が来てみたい、そういう効果は多少あるのかなと。私のような者でもそういうのはあるのかなと感じた。</p> <p>○ その言葉をお聞きしたかった。とてもいいことだと思う。今までも、行きたくても行けなかったとか、不祥事があるから現場行くことはあったと思うが。ただ、これだけの小学校と中学校とを分けて行かれるのか。</p>
<p>教育長 藤原委員 教育長</p>	<p>○ はい。</p> <p>○ 何年計画。</p> <p>○ これは何年というよりは、今年は三十幾つ行こうと思っているが、できるだけたくさん行きたいと思っている。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 今言われたように、現場にとってはトップが来てくれたというのはものすごくやる気になる基になる。授業はもちろんだが、指導課が授業のことをしているとしたら、教育長は大きな視点で、学校長もその気になるようなお話が仮に出てきたらすごく効果が上がるようだし、ただ大変だろうなと思った。日程的に、議会もあってだし。ぜひ続けてほしい。</p>
<p>教育長 塩田委員</p>	<p>○ その他あるか。</p> <p>○ 新成人の集い実行委員会が始まったということだが、実行委員7名出席と言っていたが、何人おられて、今年度はどういう方向性で行こうかという話になったか教えてほしい。</p>
<p>地域子育て支援課 副主査</p>	<p>○ 今年度は新成人の集いの実行委員が7名ということで、昨年度、それから2年前も15名で、今年は半分で非常に人数としては少ないが、社会人の大工さんをはじめ、今回の7名は本当に自分の意見をしっかりと持った、一人一人が自分の思いをきちんと言える方たちが来てくれているので大変頼もしいと思う。先週で第4回を終えたが、今、本年度はどのようなテーマ、コンセプトで行くかを話し合っている。次回、実行委員のほうでテーマとキーワード等を大体のものは決めて、それから企画に入っていきたいと思っている。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>昨年度は、雨でたくさんの新成人が中に入って、人があふれてしまったという反省点があり、会場は今年度も岡山ドームだが、雨対策として座席数を昨年度よりも増やす。それから、外に雨が降ったときに避ける場所がないので、少々お金もかかるが、雨よけのテント等も増設する。それから今年度はキリンビールとタイアップをして、アルコールのパッチテストがあるが、これから新成人の方たちもお酒を飲む機会がふえるので、自分たちのアルコール体質がどれくらいあるかという方法も今、ちょうど1回目、話合いをしたが、そういった告知をする場面とか、企業さんとタイアップをしていく方法も今年度は考えている。</p> <p>7人は非常に少ないので、もう一度、大学回りをしていて、もう少し人数はいてもいいかなと思うので、今、増やす努力をしているところである。</p>
<p>生涯学習課課長代理</p>	<p>○ 19番、PTAの指導者研修会、これの今年度のテーマとか、講師の方はどなたか教えてほしい。</p> <p>○ 今年の講師は、ノートルダム清心女子大学の石原教授にお願いしている。石原教授は睡眠の専門家の方で、眠るとはどういうことか、どういうサイクルで眠りがプラスになったりするか、その周期を利用した、よい眠り方であったりとか、睡眠に関するお話をされた。その後は、そういった話題をもとに皆さんで情報交換するような1日を過ごさせていただいた。</p>
<p>教育長 全委員</p>	<p>○ 他にはよろしいか。</p> <p>○ <なし></p>

7 議 事 の 大 要

<p>教育長 全委員 教育長 教育長 学校施設課長</p>	<p>○ ただいまから7月岡山市教育委員会定例会を開催する。議事に入る前に会議の公開、非公開について諮る。日程第4の報告第18号は、教育事務に関する議会の議案についての市長への意見の申し出に関する事項として、会議規則第7条第1項第3号に該当するため、また日程第5の第15号議案は、附属機関等の委員の任免に関する事項として、会議規則第7条第1項第2号に該当するため非公開としたいと思うが、委員の皆様、いかがか。</p> <p>○ <承認></p> <p>○ それでは、日程第4の報告第18号及び日程第5の第15号は非公開と決定する。</p> <p>○ 続いて、日程第4、報告第17号を学校施設課から報告願う。</p> <p>○ 報告第17号専決処分報告について説明する。</p>
	<p>本件は、平成29年5月25日に発生したリース公用車の事故による債務不履行に係る和解及び損害賠償の額を定めることについて、教育委員会に付議する時間的余裕がなかったことから、岡山市教育委員会事務処理権限規則第6条の規定により、平成29年6月16日に専決処分したことを報告し、承認をお願いするものである。</p> <p>まず、このたびの事故の概要を説明するが、このたびは当課の職員がこのような事故を起こしてしまい、大変申しわけない。深くおわび申し上げる。</p> <p>この事故は、本年5月25日木曜日、午後5時15分ころ岡山市公用車立体駐車場内において、当課職員が使用したリース公用車を同駐車場1号機に入庫しようとした際、同駐車場内の鉄骨の柱に衝突し、公用車前面を破損したものである。資料の2ページ目は、6月開催の市議会で専決処分報告し、承認されたものである。</p> <p>4ページをごらんいただきたい。位置図と詳細図である。</p> <p>当課職員が北方向から帰庁してきた。1号機に入庫するため、ゲートをあけるため、状態①で停車している。このときにハンドルを左に切り過ぎたということは認識していたが、ゲートをあけて入庫をする際に、慌ててハンドルを切り損ねて、柱に衝突し破損したものである。5ページ目に写真が載せてあるが、赤で囲ったところを拡大している。この柱に衝突し、前面を破損したものである。</p> <p>破損したリース公用車については、庁舎管理課と賃貸人である株式会社トヨタレンタリース岡山とで協議した結果、修理費が多額となることから、修理不能と判断し、平成22年2月9日時点で締結した軽自動車リース契約の第16条自動車の滅失等に基づき、当該車両のリース契約を終了し、同書に定める損害賠償金を支払うこととなった。損害賠償金は、資料の3ページにある残リース期間に係るリース料が9万円、車両相当額が14万1,000円の合計額から、未発生メンテナンス費用1万6,105円を差し引いた額21万4,895円である。賠償金については、全国市有物件災害共済会自動車損害共済により20万円まで災害共済金をもって支払われ、残額の1万4,895円は岡山市の負担にて専決処理後、当事者へ支払い、示談が成立している。</p> <p>このたびは当課職員がこのような事故を起こしてしまい、申しわけなかった。重ねておわび申し上げます。今後このようなことがないように、当課職員へは安全運転の周知徹底を図っていく所存である。</p> <p>以上で説明を終わる。</p>
<p>教育長 藤原委員 学校施設課長 藤原委員</p>	<p>○ この報告第17号について、何か質問、意見はないか。</p> <p>○ 柱はどうもなかったのか。</p> <p>○ 柱には破損はなかった。</p> <p>○ 公用車は余り横幅がなくて、これだけすき間があるのに左に切っていたと言っても、ど真ん中が当たっているのは、どうかと思って、ちょっと心配になったが、柱はどうもなし。</p>
<p>石井委員 学校施設課長</p>	<p>○ 事故の原因は切り過ぎたということだが、それ以上に、根本的な何か原因に係るような事故は、特にないということでもいいか。</p> <p>○ はい。</p>

<p>石井委員 学校施設課長 石井委員 学校施設課長 石井委員 教育長 全委員 教育長 教育長 指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単純に切り過ぎただけと。 ○ はい。 ○ そういうことか。 ○ はい。 ○ わかった。 ○ では、報告第17号を承認してよろしいか。 ○ <承認> ○ 報告第17号を承認する。 ○ 次、日程第5、第14号議案を指導課から説明願う。 ○ 本議案について説明する。 <p>本議案は岡山市立小学校、中学校、岡山後楽館中学校及び岡山後楽館高等学校、あわせて小学校、中学校の特別支援学級における平成30年度使用教科用図書の採択をお願いするものである。今、お手元に教科書の実物等を配付するので、よろしく願う。</p> <p>では、初めに小学校の特別教科、道徳で使用する教科用図書の採択をお願いする。委員の皆様には、見本を前回の定例会でお渡しさせていただき、本日までに研究していただき感謝申し上げます。見本については、今、机の上に同じものを用意させていただいているので、活用しながら審議をしていただけたらと思う。</p> <p>また、教科書展示会においては、一般の市民の方の意見をいただくということで、アンケートもさせていただいた。そのアンケートの結果については、同じく机の上に置かせていただいているので、参考にしていただけたらと思う。</p> <p>この後、採択する教科用図書と、その採択理由を決定していただくが、進め方について簡単に説明する。</p> <p>まず、事務局から先日行われた教科用図書選定委員会が出た意見等について簡単に説明する。質問等があったら、そこで質問いただき、お答えをさせていただく。その後、皆様一人一人から採択すべき教科用図書とその理由について御発言をいただく。意見が一致した場合、採択理由について審議いただくが、意見が一致しない場合は、十分意見交換をしていただきながら、ひとつ採択をお願いしたいと考えている。最後は教育長で採択した教科書と採択理由を確認いただき、終了という形になろうかと思う。</p> <p>以上、小学校の特別の教科、道徳についての説明を終わる。質問等があったら願う。</p>
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今、指導課長から採択についての進め方などの説明があったが、質問はあるか。よろしいか。 <p>それでは、特別の教科、道徳について審議を始める。事務局より説明願う。</p>
<p>指導課課長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ それでは、特別の教科、道徳について説明する。先日よりお配りしている小学校教科用図書選定資料をご覧ください。表紙をめくっていただくと、岡山市の子どもの課題を2つに分けて載せている。その中で、特に岡山市の子どもの課題としては、2つ目にある実際の場面において自分が判断し、道徳的行為に結びつけるところに課題があると考えている。そこで自分で判断し、道徳的行為に結びつけることに着目して、8社の教科書の特徴をお伝えする。 <p>まず、一番初めにある東京書籍である。丸の中で言うと2つ目の丸、出会う、触れ合う、問題を見つけて考えるなどのページをマークで分類し、児童がどのように学習を進めるかがわかりやすくしてあるということで、主体的に考えたり、自分のことを振り返ったりすることができるように工夫されているというような意見があった。</p> <p>次に学校図書である。1つ目の丸になる。規則の尊重に関する題材を多く取り上げ、重点的に規範意識の育成を図ることができるということで、自分で判断して行動に移すことにつながるのではないかという意見が出た。</p> <p>次に、教育出版である。これは2つ目の丸になるが、やってみようではスキル学習を取り入れ、心の中の自分と対話したり、役割演技をしたりすることで、具体的な行動につなげられるように工夫されているという意見が出た。</p> <p>次に、光村図書である。こちらは2つ目の丸になるが、考えよう、つなげようで</p>

は、道徳の時間に学んだことを授業後の生活や他教科や行事等に結びつけられるような投げかけが示されているということで、実践行動にそういうことがつなげられるのではないかという意見が出た。

続いて、日本文教出版である。これは3つ目の丸になるが、道徳ノートにそのときの考えを記録したり、自己評価の観点に沿って、自分自身を振り返ったりすることで、みずから成長を実感できるとともに、今後の生活に生かそうという意欲を持てるように工夫されているという意見が出た。

次のページの一番初め、光文書院である。光文書院の1つ目の丸になるが、児童に寄り添うキャラクターを設定し、共感や気づき、考えるポイントや考えを広めるための見方など、さまざまな投げかけを行い、自分の経験と照らし合わせて考えることで、実践行動につなげられるのではないかという意見が出た。

次に学研教育みらいである。これは1つ目の丸になるが、深めよう、つなげよう、やってみよう、広げようといった学び方が示され、多面的、多角的な学びを展開することで日常生活につなげられるように工夫されているという意見が出た。

最後に廣済堂。2つ目の丸になるが、道徳ノートは内容項目ごとに構成され、自分自身のことを深く見詰め、自分自身の成長を実感することができるということから、実践行動への意欲を持てるよう工夫されているという意見が出た。

以上で説明を終わる。

教育長
藤原委員

- それでは、見本の選定資料について、質問や確認事項があるか。
- ノートが分冊の形になる。今後、評価を伴うということなので、イメージとしては、そのノートに書いたことが中心になりそう。使ってもみてない段階だが、現場としたら、個人個人の評価をどういうふうにつなげようとしているか、何か話題に上ったのか。

指導課長

- どういうふうに指導を進めていくかという具体的なところまでは、なかなか選定委員会の中で議論にはならなかったが、何社かはそういった形で別冊のノートとか、あるいはノートの指導のあり方にも示されていたということは、かなり共通の話題として出ていた。評価をするに当たっては、恐らくそれも1つの評価資料になり得るものということで、学校には、そういったものが採択されたら紹介するだろうなという認識ではある。いろんな角度から評価のことについては考えていく必要があるかと今のところでは思っている。

教育長

- ほかに、よろしいか。事務局から何か補足で説明はないか。
それでは、早速だが、採択すべき教科用図書とその理由について、委員の皆様各自で検討した結果を案として発表していただく。

奥津委員

- 選定資料なども読ませてもらいながら、中身も目を通したがなかなか差、大きなところの違いが見つかりにくいと思った。1つこれ、内容説明資料の充実の点を少し見たときに、かなり、パンフレットの的なものから先生向けに、道徳の教え方として、こういうのは今回コンセプトというか考え方で明記すべきだろうかなと。割と詳しく言っていたのは光村図書かなと思った。

あと、内容的な部分においても、過不足なくというか、別冊ノートが何社かあったが、なかなかこれを1時間の授業で書いてやるのは結構、分量的にも大変だし、宿題として出すのもどうかなと思ったりして、ノートを使ってというよりは、そこまでならないほうがいいのではないかな。あと、内容的な部分でも、これにもあったが、世界人権宣言だとか子どもの権利条約だとか、そういった比較的道徳に近いようなことへの記載も充実しているというか、ほかにも多少取り上げているところはあったが、中の書き方についても、割と共感が持てるかなという部分もあり、私は光村図書がいいかなと思った。

藤原委員

- 私も8社読み物的に読めるものが多かったが、以前の、例えば心のノートで取り上げられてた教材とか、文部科学省がやってる教材がまた再度載ってるのかなという感じはしたが、扱いについて、この教材がいいのかなというのもちょっと感じるころはあった。

私が見た観点は、今回の道徳が教科化になるに当たっての、1つの視点をいじめ防止が発端をつくったかなという気がしたので、いじめ防止について、小学1年生から6年生までどういうふうに使われているのかということも1つの柱として見せ

てもらった。その中で、8社のうちオンリーワンではなくて、今、2社どんなかなと思っっているのがある。それは、1つは東京書籍で、1つは日本文教出版である。この2社がいいかなと思って見せてもらった。

東京書籍に關して言え、今回の道徳のこゝで考へるだけでなくて議論するとか、集団の中での生活のあり方を問われることが多いかと思っるが、東京書籍には特別活動の視点のようなものがたくさん入っっているなど。だから、ただ単に読み物で読んだだけでなくて、次の行動に移すために学級でどうあつたらいいのかな。特活ですればいいようなものもあつたと思っるが、それがうまく取り入れられてたかなと思っる。ただ、海外というか、グローバルな視点で、どの会社さんにも国際的な流れがあつたが、中国の子どもさんの遊びがユニークな遊び、私たちにはポピュラーだが子どもたちにはどうかというのがあつた。大分入り込んであるというか、詳しいなというか。

今の日本文教出版さんのは、非常にいじめ防止が学年を追うに従って、より詳しくなつて、今、一般的に学校で行われているようないじめの4層構造なんかにも触れてる。そういうのがあつたりとか、どの会社にも現代的な課題で、例えば、携帯電話であるとかスマホであるとか、そういう機器の問題なども取り上げられて、うまく入つてたのが日本文教出版さんかなという感じがした。

いずれにしても、どの会社も考へる道徳というの是非常に重く受けとめたり、議論して次にどう生かすかというの工夫が見られたかなと思っる。余分なことだけ、表紙がどれもとても子どもっぽい。子どもっぽいと言つたらおかしいが。この日本文教出版さんのが、唯一、人間の顔が載つてる。これは肖像権とか何とかも全部クリアしているのだと思っるが、好みがあると思っるが、私は人が載つてのほうがいいかなという気がした。

○ 今、藤原委員もおっしゃつたが、今回、新しく道徳が教科化するということに當つて、まず、全体で示されている指針をもとに、各社でよくそれが整理されて工夫されているというところを感じたことを報告させていただく。

それから、選定委員会の報告、今日拝見したアンケートも含めて、私としては、学研教育みらいさんの教科書を1として選択しています。理由としては、1つ目として、藤原委員が先ほどおっしゃつたとおり、今回の道徳の教科化の原因として、具体的ないじめの問題がきっかけとなっているということで、道徳の教科において、それが全て解決するとは思えないが、成果が求められている点があるかなと思っている。選定した教科書では、いじめ問題に、よりフォーカスされて、身近な問題とか、あるいはそのストーリーの中で主人公やそれ以外のメンバーが葛藤するような場面が取り入れられていることが、より主体的に今後、児童が考へて行動することにつながっていくことについて、効果的ではないかと考へた。

2つ目としては、岡山市の取組との結びつきの強さという点においてだが、その中の1つとして、岡山市の教育大綱あるいは岡山市の教育指針、基本計画をもとにした基本プランの中でも道徳の授業の活用を直接記載して、問題行動の防止と解決、また豊かな心の育成というところを重点的に上げているので、この点においては、いじめが全てではないが、先ほど説明したとおりの内容と重複する部分かなと考へている。

もう一つ、岡山市としてはESDに取り組んでいるので、選定した教科書の中では、具体的に登場人物が出てきて、世界的な中で取組をしているという内容が含まれていて、この観点として、しっかり観点が置かれてるというところで併せて上げさせていただきたいと考へている。

長くなつて申しわけないが、その2つ以外の視点についても見させていただいて、例えば、教師用の指導書が充実しているとか、あるいは、いろんな視点という意味で、教科書が全体的に分厚くなつて、登校のときのランドセルがどんどん重くなつて大変だとか、いろんな視点があると思っるが、最終的には、申し上げた2つの視点で選定している。

それから今、表紙のお話も出たが、私としては、選定はしていないが、光村図書さんの表紙、これは副題に「君が一番光るとき」とついているが、そういうタイトルがついて、また表紙をめくると目次とか説明がついてる教科書がほとんどだが、

石井委員

塩田委員

光村図書さんの場合は、「みんな生きてる、みんな生きてる」ということで、とてもメッセージ性が強くて、表紙の絵も写真ではないが、大人が求めている理想の子どもの姿ではなくて、いろいろ葛藤しながら、前に向かっていくという姿がイラストというか絵で示されていて、そういうものが一人一人の子どもに寄り添っている形が鮮明に出ているので、ここは非常にいい点かなと思ったので報告させていただく。

- 私は道徳の時間で学んだことを家庭でも議論を広げてもらいたいということで、そういったことにも使えるような教科書という視点で拝見した。たまたま最後になって、今、3社出てきたが、私はその3社がいいかなと思っている。その中でも2社、光村図書と日本文教出版についていろいろ比較しながら、決めかねているところである。

光村図書だが、岡山市で採択したいと考える点は5点ある。

1つは、道徳の時間の進め方、話し合っ、演じて、読んで、書いて、考えるというところで、導入の発言があつて本文に行つて考えをつなげようという、学習の進め方を明示しているところで、保護者が読んだときも、こういう形で学んでいるのだなということがわかる。

2番目に、1年間を4回に分け、学びの記録をするところがある部分である。単元ごとに学んだ内容の感想を書きためておいて、1つの学習のまとめが終わった後に振り返る。学んだことを活かしたかとか、自分が変わったかの行動変異について書き残すようになっている。これも記録をとる、また書く、自分で考え感想等を書いた教科書ということで、後で振り返りもできるということがいいかなと思った。

それから夏休みや冬休み、課題も準備しているが、単元ごとにつなげてみようなどもそうだが、課題を出してそのままというのではなく、こういうことを調べたらいいよとか、関連する図書の紹介があるのも、そういう自習につながっていくかと思った。

4番目だが、命に関するテーマはすぐ教科書で非常に重要なことと言われているが、光村図書の場合は1年から6年生まで中村桂子さんの文章を使っている。中村桂子さんは生命科学者の方なので、高学年になると命の部分、生物学的な人という、生物としての人と、それから社会、集合の中でのつながりがある人間という形で説明をしている。道徳の教科でありながら、そういう意味では理科と社会の、何か総合型の学習にも発展できるのかなと考えた。特に5年の「同じと違う」では、1人の人間の中でも同じところもあれば違うところもあるし、集団の中でも同じところ、違うところはあるよと指摘して、同じ人間だから多様性、ダイバーシティを認め合えて、すばらしい社会ができてるんだよという話があつてから、子どもの権利条約につなげている。そういうつなげ方は、6年生の「まどさんからの手紙」から世界人権宣言につなげていくという形でいいかなと思った。

それから、5番目は6年生で海の生き方というところで、岡山県の備前市のアマモ場の取組を入れていて、これは岡山市のESDの取組が取り上げられて、こういうことをしているというのが、子どもが見たときに非常に自尊感情の高まりにつながるのではないかなとも思った。その5点ということで、光村図書を推したいなと読み進めた。

その後で、日本文教出版社も読ませていただいたが、そちらも取り上げたいと思った点が5点あり、1つは先ほどの光村図書と同じだが、学び方は非常にページを割いて書いてある。それから、心のベンチとかで学習を深めるところもあった。

2番目に、学習の手引きがとても充実しているなと思った。岡山市は、若い先生方がどんどん入つてこられていて、講師の先生もおられるというところで、もし道徳に苦手意識があつても、この教科書であれば、進め方が統一化されていて、そういう方たちにはいいと感じた。

それから、あとテーマの取り上げ方が独特だなと思った。いじめと法律を取り上げていて、いじめは実は法律用語になるとすごい意味があるのだよという、それは犯罪なんだよという形での取り上げ方をしていたり、あと税金についても取り上げていたりして、それからESDの視点ももちろんあるが、独特のテーマの取り上げ方をしているなと思った。

<p>教育長</p>	<p>日本文教出版については、道徳ノートの存在は大きいかなと思った。日本文教出版の場合は、各單元ごとに振り返りができる。ほぼ自由記述で、思ったことを書けるという。だから、岡山市の子どもたちは少し書くところに苦手意識があるということだが、これは1年から6年まで道徳をやれば自分の感想を書くみたいな、振り返りを書くんだよと意識づけをしていけば、心の成長記録として残すこともできるし、それから、書くことが定着、習慣化するのではないかという期待もある。</p> <p>それから、道徳ノートに今日の学習はどうでしたかという問いかけがあって、そこで自己評価をするという点もあった。自分がどう学習したかというのを振り返るところになると思った。</p> <p>日本文教出版のほうでも岡山のところが出ると緒方洪庵を取り上げていて、除痘館、そういった取り上げ方もあったので、こうしたところも少し岡山の話題ということで、いいのではないかと思う。</p> <p>方向性は全然違うが、光村図書のほうはかなり熟練、ベテランの先生たちがうまく授業していけばすばらしい授業ができると思うし、若手の先生には日本文教出版の教科書がベストかと思う。</p> <p>○ 予想どおり意見が割れてしまったが、もう少しまとまるように御意見を伺えればと思う。</p> <p>今、出たのは東京書籍と光村図書と日本文教出版と学研教育みらいの4社が出たと思うが、どうだろうか。自由に言ってくれればと思う。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 日本文教出版は悪くはないと思うが、なかなかこのノートが大変だと思う。確かに時間をとってやればいいかなと思うが、これをどう扱うか、なかなかじゃないかなという気がした。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ 最初は1行でもいいと思う。光村図書でもあったが、話し合っただけで書いて考える。大体、道徳の時間の中では話し合っただけで終わってしまうが、最後の締めくくりとして書く習慣をつけるのは、すごく重要だと思う。それでノートの存在が、最初は書けなくても、だんだんそれが習慣化してくれたらなという希望がある。</p>
<p>石井委員</p>	<p>○ 私も2つの観点で選んでいるが、一番2つのテーマに近かった点では、日本文教出版さんもしじめとESDとかを持続的、開発というところで近い要素はあったと思っている。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ どれもそれぞれに魅力があって、決めかねるところだが、すごく違和感があったのは、どの会社もカボチャのつるを扱っている。</p> <p>それで、そのときの最後の問いかけが、擬人化することもあるし、動物が人間のかわりかというとのは多くあるが、植物のカボチャがどうしてわがままを、どうやったらよかったのだろうかみたいな問いかけが何社かある。すごく不自然に感じた。意思があるのかなのか、擬人化すればカボチャも意思があるとしても、でも、自然に伸びている。だから、この道徳は、社会科とも理科とも家庭科ともいろんな合科してるところだけど、でも、うそはいけないなと。うそと言ったらいけないけど、想像がね。自然のものは自然に伸びて、盆栽もあるけども、何かちょっと違和感があった。</p> <p>それが、日本文教出版では取り上げられてはいるのだけど、そういうカボチャのわがままというような感じではなかった。ほかのところは、はじめから、1年生で大体載ってるから、これはどうなのかなと思う。人間以外はたくさん出てくるけど、キツネも熊もタヌキもいて、その人たちはその人たちの意思があるのだろうけど、植物の意思で、自分がつるをこっちへ伸ばさなかったからわがままよとか、わがままを直すためにとかいうような取り上げ方は、今の道徳の授業で正しいことは正しい、ほかは許さないとか考えられないとなってもいけないかなと思う。</p> <p>日本文教出版さん、もう一ついいなと思ったのは、付録のところでは結論が出ない終わり方をしている。結論が出ないということは、学級で話し合うとか、先生とディスカッションするとか、いろんなことで、それは道徳で広がることになるのかなと思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 私が言うとなんかあれかもしれない。植物も実は低学年、1年生の子どもなど、割とカボチャだけではなくて擬人化して使う場合もあります。低学年の子はすぐに同化してしまうので、そんなに違和感はない。</p>

藤原委員	<p>私の経験からもそういうことはあった。植物であっても大丈夫だと思う。</p> <p>○ でも、あっち伸びちゃいけないよというのは、強制というか、アサガオでもつるに、支柱を立てるとか少し補助はする。でも、それはわがままに捉えるのかどうかと言ったら、何か私は擬人化とともにちょっと違和感があった。</p>
奥津委員 藤原委員	<p>○ もとの話がそういう話だから。</p> <p>○ 最後の取り上げ方の巻末のところの先生が何に気をつけて読んだらいいというところが、余りにもそこに入り過ぎたら、ちょっと不自然ではないか。教材はどこにもあったが。</p>
奥津委員	<p>○ 基本的には、ちょっと不自然な感じは全部にあるのか。もう一回文部科学省の話か何かで、みんな載せようみたいな話になっているのか。</p>
藤原委員 教育長	<p>○ 不自然な感じだが、いい話なのだろう。</p> <p>○ やはり論点になっているのが、要は、特別の教科道徳になろうとしているのが、いじめ問題が発端だろうということはもう、皆さん、共通した中で、それをどう扱っているかは1つ大きな視点だろうなと思った。</p>
	<p>それから、聞いていてノートが存在、これをどうとるか。学習習慣を身につけるという意味ではいいし、自分の心の足跡になるというか、それを振り返られるということもあるだろうし、でも、本当にその時間をきちんととれるのかどうかというあたり。それからノートに逆に縛られて、先生独自の工夫が発揮できないところもあるかもしれないし、そのあたりは論点に分かれるところだと思う。</p> <p>岡山は特にそうかもしれないが、E S Dの視点、せっかく世界大会もしたから、そのあたりもやはりしっかり取り上げてほしいなど。</p> <p>あとはないだろうか。</p>
塩田委員	<p>○ 家で道徳の話を家でも広げてほしいということをやったが、そういう点では、家で取り扱いをしやすいのは、道徳ノートの存在もそうだが、日本文教出版かなと思った。テキストを見たら、この子は今日、こういうことをやってきたのだとわかるので、それをもとに話ができるのかなという気はする。学習の手引きもそうだが、学んできたのだなということがわかって話ができると感じている。</p>
藤原委員	<p>○ どの会社も教材名と昔の曲目のところには何が当たるか書いてあって、それは今言われたように日本文教出版はそれが何教育に当たるのか、いじめの防止に当たるのか、いいところまでこれは子どもが読むよりも、先生とか保護者が読んだらいいのかなというのが割と焦点化されてるから、道徳で何をやったのかなというのが話題にもなり、少し共通化できるかなという気はする。どの会社もこういう項目には分けてあるが、一番わかりやすいかなという気はする。</p> <p>現場に近い感があるのかなと思った。使いやすさというか。ノートは家庭学習にも使うかもしれないし、その時間内に使うのかもしれないが、日常的に起きてる現代的な課題を全部取り入れてる。どの会社もそれはあるが、比較的すごい高邁な読み物として取り扱っている。いい内容でオリンピック選手が出てきたりとか、取り扱いとしてはおもしろいし、いいが、うまく読み物として読んだらいいが、現実の社会というか、子どもたちの生活と合致させようと思ったら、今まで先生方が特別なプリントをつくったりとか、特別活動とか総合の中でやってたようなことが、計画的に入っているのは日本文教出版かなという気はした。誰が使っても使いやすいという。読み物として読むのだったら、ほかの会社の、もっといい、すごく楽しかったり、考えさせられたりするものがたくさんあるが、授業化ということで、扱うのはどうか。</p>
石井委員	<p>○ ノートの話が出ましたが、先生によって使いたければ使ってもいいし、使わないで別の方法が、よりよいやり方があるのだったら、別の選択肢ができるという意味では、あって損はないのではないかと思う。</p>
藤原委員 教育長 藤原委員 塩田委員	<p>○ これは原則、家に持って帰るのか。</p> <p>○ 教科書だからね。今の子は教室へ置いている。</p> <p>○ ノートと挟んでいて、ノートだけなくなっても困る。</p> <p>○ 廣済堂とか、ちゃんとノートと挟むところがつくってあって、そういうふうになくなるかなというのは、ちょっとそれは感じた。</p>
藤原委員	<p>○ 、ほかにも何社かあるが、これだけのノートを先生がつくろうと思ったら、大変</p>

<p>奥津委員 藤原委員 奥津委員</p>	<p>だと思う。意図があってつくるのはつくったほうがいいと思うが、年間34時間とか35時間で毎時間しようと思ったら、結構大変かなと思う。だから、ピンポイントで焦点が合ったようなものがあれば、それは使い方としては便利がいいかなと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 光村図書は、これぐらいでいいのではないかなと思った。 ○ それはある。 ○ これぐらいで、はい、みんな書きましようと言って、二、三行書くぐらいの、結局それぐらいの時間がとればいいのではないかなと、これ見えて思った。結構これでといたら、15分ぐらいは取っても、みたいな話になるかなと。
<p>藤原委員 石井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時間ができないかもしれない。 ○ この中で、友達の考えというのを書く欄があるのはすごくいいなと。友達の意見があったということそのまま残せるのは、そこはいいかなと思った。軽やかさという意味で言うと。
<p>奥津委員 教育長 石井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵はいい。 ○ 写真がいいのか、絵がいいのか表紙、挿絵もそうだろうけど。 ○ 自分が小学校のときを思い出したら、そういうところで好きな教科書という、意外とそういう要素がかなり強い。自分だけではないと思うが、1つ大事なポイントとではあるかなと。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵は思考を助けると思う。子どもたちの思考を深める、1つのいいツールだと思う。
<p>塩田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先生方がどうかなのかなとはやはり感じる。岡山市の小学校の講師の先生方とか若手の先生方の割合はどうなのかなと。初めての科目で光村図書のような教科書を渡されたときに、どう踏み込むか。ベテランの先生はいかようにも教えられるような感じは、広げられるような気もするが、若手の先生たちがどういうふうに思われるか。先ほどみたいにいろいろ指導が書かれている教科書のほうがやりやすいのか。
<p>奥津委員 塩田委員 奥津委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 説明資料が充実してきたかなと思ったが。 ○ 説明資料のほうか。デジタル。 ○ デジタルまでちゃんと見てないが、Q&Aだとか授業の進め方みたいなどころとか。
<p>藤原委員 奥津委員 藤原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 光村図書はイメージとして国語のイメージがある。 ○ それはある。 ○ それは置いていても、読み物としてとても充実している。しっかりしていると。それを道徳でどういうふうにしていくかなというのが、余りにもしっかりし過ぎてるといふか、きっちりいい内容は書いているが、それを道徳は考えて議論して実践にまで移すときに、すごく力量が要るんじゃないかなという気はする。初めての教科で、どういうふうに子どもたちにわからせるか。本当は結論だけではないいけない。善悪は子どももよく知っているわけだし、そうではないところをどういうふうに関心とらせるかというのは、結構難しいかなと。
<p>教育長 指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ベテランと若手と、扱いやすさ云々の話は何か思うところはあるか。 ○ 担当課ではないので十分なことは申し上げられないが、確かにたくさんの若い先生方が学校に入っていて、OJTの話など、よく教育センター等でも話題になっているところではある。そんな状況であることは間違いないと思う。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科としては初めてだが、道徳の授業そのものは、教科としてではなくて、どの先生でも中学校ではやっているから、扱いやすいとか扱いにくいとかはないかもしれない。
<p>藤原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ さっき学び方がと言っていたが、学び方をどう教えたらいいのかなと。例えば、ロールプレイという手法があるのはみんな知ってるが、教科書にまで落とし込んでいる教科書とそうでないものもある。それから、ハウツーではいけないと思うが、こういう手法ですというものがあれば、この単元ほとんど1時間扱い。1時間の中でしようと思ったら、よほど計画的にしないといけないかなと。そういう意味でも使いやすいかなという気はした。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出尽くしたとは言えないと思うが、ほぼこういう観点でこの会社にしたいというようなものが出てきたと思う。採決をとってもよろしいか。

<p>全委員 教育長 全委員 教育長</p>	<p>最初のところで、お二人が手を挙げられたのが光村図書と日本文教出版だったと思うが、ただ、東京書籍も学研教育みらいもということもあって、4つから1つということで手を挙げていただいてもいいか。では4社から1回手を挙げていただくということでお願いします。東京書籍と光村図書と日本文教出版と学研教育みらいということで。</p>
<p>藤原委員</p>	<p><挙手による採決> ○ 日本文教出版を採択するというに決定したいと思うが、よろしいか。 ○ <承認> ○ それでは、採択の理由についてだが、いかがか。今、ほぼ出たようなこともあるが。どの教科書も当然あると思うが、いじめ問題が発端となって、その扱いをきちんとしていくということ。それから、若手の先生というか、まだ経験の浅い先生も取り扱いやすいということ。それから、家でも取り扱いやすい。家庭との連携もとりやすいから、そういうこともできると。 ほかに何か。 ○ 現代的な課題にも対応できる。携帯とかスマホとか、それからE S Dも含めて、そういう教育も入っている、そういう形で、今までバラバラしてたものが道徳の中でできるというのがある。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ E S Dの視点やスマホなど、現代的な課題もそこで取り扱っているという意味で、子どもたちにも身近であるということ。そういうことも理由として挙げられると思う。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ では、いただいた意見で、採択の理由として4点上げさせていただこうと思う。1点目は、いじめの観点、視点をもとに、命とか生き方などの教材を取りそろえている点。</p>
<p>教育長</p>	<p>それから2点目だが、E S Dであるとかネットトラブルといったような現代的な課題を教材化している点。また、家庭との連携も図れることができる点を2つ目として上げられると。 それから、最後まとめのところにはなかったが、道徳ノートのあたりも少しあったので、そういった活用のあたりとか、選定資料の3つ目のところのあったと思う。 それから最後に、若手の先生方にも扱いやすい構成と、構成に少し触れさせていただくということでよいか。</p>
<p>全委員 教育長</p>	<p>○ 指導課長からまとめてくれたが、そういうことで採用していくということでよろしいか。 ○ <承認></p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 以上で小学校特別の教科道徳についての採択を終わる。 それでは事務局から続けて説明をお願いします。 ○ 長時間にわたる貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。</p>
<p>教育長 藤原委員</p>	<p>この後だが、続いて、特別支援学級で使用する教科用図書についてお願いします。特別支援学級で使用する教科用図書については、より子どもたちの実態に合った教科用図書を使用するというで、各学校で選定委員会を設けていただき、選定資料をつくり、こちらへ提案していただいている。資料の19ページから22ページに一覧にまとめているので、確認いただければと思う。本日は、その資料にある絵本等の一般図書と、それから文部科学省の著作本、合計114冊全ての採択をお願いしたいと思う。今、机の上に何点か代表的なものを用意させていただいているので、お手元に沿ってご覧いただけたらと思う。主には知的学級の子どもたちが使用する教科書である。何か質問等があったら、よろしくをお願いします。 説明は以上である。 ○ 今、机の上に並べているが、何か意見や質問があるか。 ○ これは、この学級の子どもたちは、該当の学年の教科書があり、プラスこの教科書ということか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 教科書は1種しか無償付与できないので、子どもたちの実態に合わせて、保護者、それから担当の先生方と相談して、該当の学年の教科書を使う子どもさんもおられるし、下学年と言って、中学校の子どもが小学校の教科書を使うこともある。それから、ここにあるような絵本のようなものを使用する子どもたちというふうに、そ</p>

石井委員 指導課長	<p>それぞれの子どもたちの課題に合わせて教科書を採択して使っている状況である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 知的学校、情緒の子はこの教科書か。 ○ 情緒の子どもは通常の教育課程が原則であるので、通常の教科書を使っている子どもが大半である。
石井委員 指導課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複式のときはどうなるのか、それぞれ学年。 ○ 学年をまたがって1つの学級を編成するケースも当然あるが、個別対応というふうなことを工夫しながらやっているのが実態である。
藤原委員 指導課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全部教材化すると大変である。 ○ そう、全てをどう使うかが、目の前の子どもを見ないとなかなかイメージできないというところがある。したがって選定委員会を各学校でお願いしてるところは、そのあたりにあるのかなという感じである。だから、1つの教科書に対して、10人も20人も同じものを使う、ここにある教科書を10人も20人も子どもが使いう例は余りない。子どもたちの実態とか課題に合ったものを、教科の狙いを何とか工夫しながらやっていけるようなものというところで選んでいる。
塩田委員 指導課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ それで、毎年上げられる各教材は同じものか。それとも年ごとにかなり違うのか。 ○ 原則、ずっと子どもたちが進学、進級していくので、当然違うものもあるし、同じものも使っている。
塩田委員 指導課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年は新しい本も出てくるということで、どんどん新しいものを取り入れて欲しい。 ○ 毎年文部科学省から一応リストで示されて、この中でというようなものは示していただくが、使われなくなったものはどんどん削除しながら、新しいものをどんどん取り入れて、それをもとに学校は選んでいるので、現代的なものがどんどん増えていると思っていただきたい。
藤原委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知的の子どもたちも幅があるだろうから、学校現場が知っているのが一番かなという気がする。この中でも随分差がある、国語だけでも。
教育長 全委員 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ○ それでは、案のとおり採択するというのでいいか。 ○ <承認> ○ 原案のとおり採択することとする。
指導課長	<p>それでは、事務局は続けて説明をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ それでは、引き続き、岡山後楽館高等学校で使用する教科用図書についての採択をお願いします。23ページに一覧を用意している。高等学校の教科書は無償付与ではない。また、専門性が高くなるので、高等学校で選定委員会を組織して選定していただいたものを本日、案としてお示しするということである。 <p>23ページのところに、左から教科、それから科目、その次の右側の欄だが、新規あるいは継続という言葉をそこへ入れている。継続というのは、昨年度も同じ教科用図書を採択していただいて使用していたということである。それから新規が、このたび新たにというところの教科用図書である。新規といっても、発行したものを全て変えられたというのはこの中でごく限られたものになっている。教科書で少し検定に合わせてマイナーチェンジとしたものも、この新規の中に入れさせていただいている。</p> <p>発行社が変わったものとしては、国語総合、古典、理科の化学、生物といったところが発行社ごと変わったものである。その理由については、高等学校の選定委員会で作っていただいた高等学校教科用図書選定資料に記載されている。岡山後楽館高等学校は、単位制の総合学科ということもあり、子どもたちが多種多様な授業を受講する。したがって、いろんな種類の教科用図書の採択をお願いしている状況である。何か質問等あったら、よろしくお願ひしたい。</p>
教育長 藤原委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 何か意見、質問はあるか。 ○ これも現場の高校の先生方が選んでいるのだろうと思うが、岡山後楽館高等学校で定時制がなくなってどんなか。進学を目指す子がふえて、難易度の高い教科書を使うようになったとか、そうでもないとかといった傾向はあるのか。
指導課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定時制から全日制になってしばらくたつが、そういった顕著な傾向は、こちらでは聞かれてない。そう大きな変化はない感じで見ている。ただ、4年制大学の進学を目指す子どもたちもいるので、そういった子どもたちに対応するもの、それから

藤原委員	<p>専門学校、就職という子どもたちにも対応するものということで、数の種類もかなり多くなっている。</p> <p>○ 種類が多そうである。個人的にある進学高校の教科書用選定について、よくわからないが、外部の1人で関わっていて、種類が全然違う。だから、相当いろいろあるのだろうと思う。グレードがどんなのかもわからないが、岡山後楽館高等学校の子どもにふさわしい教科書でないといけなだろうから、その辺は現場の先生がよく選んでおられるんだろうと思う。建築とか何とか、本当に幅広いから選ぶのも大変だろう。見るのも大変だが。</p>
奥津委員 藤原委員 奥津委員 藤原委員	<p>○ 現代社会で版が違う。</p> <p>○ これは昔の教科書のサイズか。</p> <p>○ 何か僕はちょっと薄いかと思う。</p> <p>○ そう、薄いと思う。1と2があるだろうが、薄い。みんながわかるような教科書なのかなど。普通物理とか化学でも、すごい分厚いが、そうでもないような感じだから、中学校よりも薄い感じがする。</p> <p>普通1年次で何とか何とかいう会社を採用したら、大体それが上がる。途中でこれも変わったというのは、学年が、次に入学した子が変わったということか。</p>
指導課長 教育長 全委員 教育長	<p>○ 基本的には指摘のようなつくり方をしていると思う。</p> <p>○ それでは、案のとおり採択するということでよろしいか。</p> <p>○ <承認></p> <p>○ 原案どおり、高校のほうの教科書を採択することとする。</p> <p>それでは、続けて事務局から説明をお願いします。</p>
指導課長	<p>○ それでは、最後に特別の教科道徳以外の小学校、中学校及び岡山後楽館中学校で使用する教科用図書についてお願いします。</p> <p>中高一貫校である岡山後楽館中学校については、他の中学校とは別に採択を行うことはできるが、岡山市においては、他の中学校と同じ教科用図書の採択を行っていただいている。小学校、中学校は本年度採択替えはない。したがって、発行者が何らかの理由で出版できなくなるなどの理由がなければ、現在使用中の教科用図書の採択をお願いしますものである。現在使用している教科用図書については、12ページから18ページにお示ししている。これら全てを採択いただければと思う。よろしく願います。</p>
塩田委員	<p>○ 中学校の国語が三省堂に変わった。それに関しては何か先生方から意見は出ているのか。</p>
指導課長	<p>○ 指摘のところは、私も気になりながら声をと思っていたが、特に混乱はこちらには入っていない。順調に研究しながら使っていただいているものと思っている。</p>
藤原委員	<p>○ つい最近まで現代文って、ことし退職された国語の先生が思い切った改訂でよかったといったことを、私ではなくほかの国語の人と話していて、前の三省堂よりは使いやすいということだった。前というのはずっと前らしいが、ベテランの方だから。非常に岡山市内がずっと光村図書になれてきて心配はしたが、内容もよくて扱いやすいよさだという話が、全然別件のところで出ていた。1人のお話だが。</p>
教育長 全委員 教育長	<p>○ ほかの質問あるか。では、案のとおり採択するということでよろしいか。</p> <p>○ <承認></p> <p>○ 原案のとおり採択することとする。</p> <p>それでは、以上で本日予定していた教科用図書採択についての審議は終了するが、事務局から連絡があればお願いします。</p>
指導課長	<p>○ 大変長時間にわたる慎重な審議、感謝申し上げます。今後は採択図書をまとめて、県の教育委員会へ報告することになる。</p> <p>なお、採択に係る資料、採択教科書、採択理由等については、教科書の採択に関する信頼を確保するという観点から、8月31日までは公表を控えていただき、採択終了以降に私どものほうで、ホームページで公表したいと考えているので、配慮のほう、よろしく願います。</p>
教育長 全委員 教育長	<p>○ よろしいか。何か意見はあるか。</p> <p>○ <承認></p> <p>○ それでは、以上で教科書の採択については終了する。</p>

傍聴の状況

報
一

道
般

1名
12名

平成29年7月 岡山市教育委員会定例会（非公開） 会議録

1 開催日	平成29年7月25日（火）		
2 開会及び閉会	開会	15時35分	
	閉会	15時50分	
3 出席委員	教育長	菅野和良	
	委員	奥津晋	
	委員	塩田澄子	
	委員	藤原佳代子	
	委員	石井希典	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	安田充年	教育次長	天野和弘
統括審議監（企画調整担当）	小西洋史	審議監（学校教育担当）	三宅泰司
審議監（社会教育担当）	澤岡哲雄	審議監（企画総務担当） （教育企画総務課長事務取扱）	村田守
審議監（生涯学習担当） （生涯学習課長事務取扱）	近藤康彦	学校施設課長	齋藤和美
生涯学習課課長代理	安東信哉		
事務局（教育企画総務課課長補佐）	生田裕宣	事務局（教育企画総務課副主査）	島田雅紀
5 議題及び結果			
報告第18号	市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について		承認
第15号議案	岡山市社会教育委員の委嘱について		原案可決